

やまゆり

学校だより

令和5年5月19日
13号
学校長 杉本賢二

校訓 「和の心」
学校教育目標 「社会に貢献しながら自立する生徒の育成」一気づき・考え・実行する一
校内研究主題 「WEBQUを活用し、学級の安定と活性化を図る」

学校教育重点目標 「確かな学力の育成・生徒の良さを伸ばし、課題解決の連携」

2年生の宿泊学習を今後の総合的な学習の時間に生かす

総合的な学習の時間では、以下のことを確認しながら学ぶ必要があります。前号で紹介した2年生のふるさとを持続可能にするためのSDGsについての学びを全校生徒で共有しながら学びを推進していきましょう。

「ふるさとを持続可能にする学び」・「15歳の提言」のポイント

1 目的 ふるさとの社会事象を自分との関係において、「多面的・多角的」に考える

2 中心となる教科

「社会は公民科」を柱に、「総合的な学習の時間」と連携して実践する

↓
一人一人の生徒の、実社会との接点を重視した「課題追求・解決」学習

3 提言内容 「より良い社会(ふるさと)について考え、意見交流し、提言する」

4 自分との関わり 必然性が重要

自分の課題意識・ふるさと・地域に関する確かな理解 → より良い社会をどう考えるか

① 現実社会を発達段階に応じてどのように見るか・考えるか・体験するか

② 本物との出会い

③ 根拠をもって議論する・根拠をもって話し合う必要性

5 中学生段階 社会科の学びをもとに、社会との関わりを実感する

小学生→より良い社会を創るにはどうしたら良いか

↓
中学生→もっと主体的に魅力を発見・発信し、課題を改善・解決するにはどうしたらよいか

6 活動のポイント

社会的な見方や考え方を生かして活動する。

① 現代社会・ふるさとの魅力や課題を知る

② 課題設定から調べる・まとめる

※SDGsの視点から発見する

※課題設定の重要性 当事者意識

- ③ 多面的・多角的に考え、判断し、選択する
- ④ 説明・議論し話し合う
- ⑤ 魅力を生かし、課題をより良く解決する態度を養う ※他者と協働して解決する

7 評価ポイント

- ① もっと話を聞きたいと思わせる発見・発想・オリジナリティー
- ② 実現の成功率 可能性 持続性
- ③ 自分でどうしても何とかしたいという圧倒的な当事者意識

8 レポートの構成例

- ①タイトル(内容や何をするのがひと言で分かる)
- ②魅力の発信・解決したい動機・背景・思い
- ③具体的な対策・改善策
- ④想定される利用者の声
- ⑤コスト・利益・データ
- ⑥独自性

最後に確認したいこと

村の施策に活用されることが第一ではなく、ふるさとで生活する一人の中学生の切実な課題意識とその魅力を発信し、課題を改善する情熱ある探究学習の学びの過程によって、一人一人の生徒が知識・技能、思考力・判断力・表現力を生かして、「主体的に学ぶ意欲を向上」させることが何より重要です。

2年生の宿泊学習の体験を個人の例で考えてみる



身近な生活のなかにある現状

自分の祖母や地域の農業に携わる方々が、良い野菜を栽培しても売る場所がない。または、その多くを結局捨ててしまっている現状がある。(例として)

活動の動機

この現状を私は、何とかして改善・解決したいと強く願った。そして、祖母や道志の農業に携わる方々に喜んでいただきたかった。

具体的対策

横浜市民の飲料水を供給する道志村の野菜の魅力を知って頂き、食べて頂き、継続的にサミットで購入して頂く。

ヨコハマ SDGsデザインセンターでの体験学習を共有する

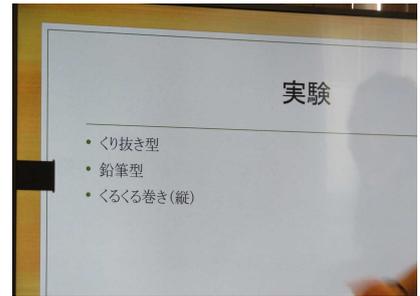
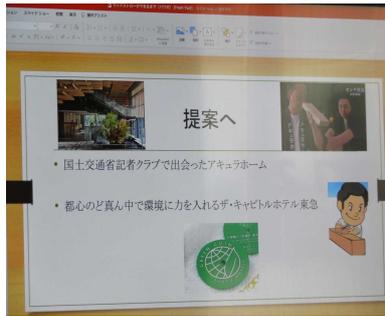
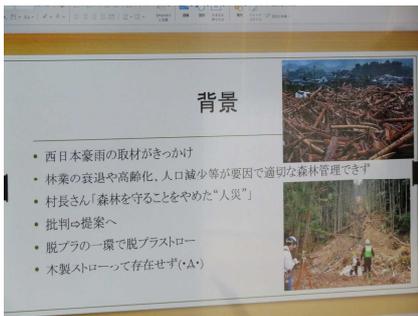
2年生の宿泊学習では、1日目に「SDGsヨコハマデザインセンター」で、「環境問題」について学んだり、プラスチックストロー対策として、「道志村の水源涵養林の間伐材を使って木のストローを制作する体験」をしました。講師は、木のストローの開発を強く願い、世界で初めて制作した環境ジャーナリストの「竹田」さんです。



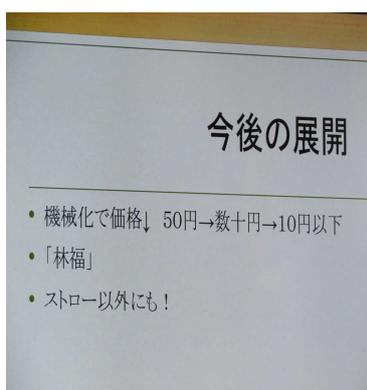
講師は、木のストローの開発を強く願い、世界で初めて制作した環境ジャーナリストの「竹田」さんです。

←この世界で初めての木のストローは道志村の水源涵養林の間伐材です

西日本豪雨でふるさとが荒廃→間伐による災害に強い山林構想→間伐材でストロー製作を提案



→提案の理解者・協力者→実験・特許取得→ザ・キャピトルホテル東急で使用→大きな反響



付加価値を付けた製品

- ①間伐による災害に強い山林づくり
- ②間伐材の使用による環境に優しい木のストロー
- ③障害のある方が製作して雇用の確保



当日参加できなかった生徒のために、製作用のキットを竹田さんが送って下さいました。思いを感じ、行動できる方との出会いに感謝。

「横浜市民防災センター」での学びを共有する

2日目は、横浜市民防災センターで防災について学びました。道志村は、高齢者が多く防災の観点で課題設定をしてより良い地域づくりに貢献することは重要です。
一次救急救命に全校で取り組んでいるのは全国でも道志中だけだと思います。

市民防災センター到着



三助法 自助の重要性



全員で消火訓練の体験



地震での対応訓練



避難所の運営について協議



個人→協働



班の考えを発表



心に残ったショット

両手を挙げて懸命に売る！ 今までの学校で1番！ 学校の環境改善に今後も連携 竹田さん



道志丸を探して下さった富士急さん 必死の販売アナウンスの店員さん オンラインで学ぶ生徒



